

人の大切さ、世界の大切さ  
帯広市立緑園中学校 3年  
宮崎 澄佳

あの日をいまでも忘れることが出来ません。一生忘れることができないでしょう。三月十一日から約一週間後のことです。

いつものように帰宅した父が、「来週、宮城に行くことになった。」その一言で家族の中で一瞬時が止まったように静まりかえったのです。後から「なんでそんな所にいかなきゃならないの？」と聞くと、「津波で流された車を助けに行く！！」と言ったのです。父は自動車関係の仕事をしているため、特別支援隊として行かなければならなかったのです。内容はとても厳しい日程でした。二週間の間で宮城県内、岩手県内の津波で流された自動車類を取り除くというものだったのです。

TV で見ていたショックな映像を思い出すと行ってほしくないという思いでいっぱいでした。そして、とうとうその時が来てしまったのです。

「じゃあ、行ってくる。」その一言を残して。その夜は母にみつからない所で大粒の涙を流しました。そんな時、着信音が鳴り響きました。父からでした。「つかれたわー。でも外国の人も日本の人も支援に来てがんばってるから俺もがんばる。」その日の夜はそれだけでした。その時、こんな感情がわいてきたのです。「かっこいい」。初めてでした。津波の被害にあった所に立ち向っていく姿が初めてかっこいいと思わせてくれたのです。それから、二週間後父が帰宅しました。

父は多くの思い出をはなしてくれました。たくさんの自衛隊が死体の処理をしていた事、TV で見た建物の上に本当にバスがのっていたこと。家と家の間に車があって取り除くのに苦労したこと。車がドロドロだったこと。写真で実際に見ているうちに、恐怖に包まれてしまいました。

でも、一つだけ感動した事があります。それは、支援に向かう人々のすばらしさです。大きな被害にあった所でも何もなかったような顔をして行っていること。外国からの大きな優しさ。父の真剣に向かっている姿勢。何より感動したのは、人の大切さです。

今回、父が行った事と同じように世界も同じ事をしています。たとえば中国で起きた大地震、スマトラ半島で起きた地震、これらが起きた時も一番最初に動いたのは世界各国です。言語や文化、肌の色が違っても「助けたい。」という思いは同じなんだと思います。

私は世界各国そしてなにより父に大切な事を学んだ気がします。